

# 知財の意識が低く後悔、自責。

# 「開放特許」を掴み再試合の舞台へ！ 宝 養生資材 株式会社 吉村 夫妻

内装や塗装の世界では誰もが知る養生材「マスキングシート」、「ベニスチロール」。35年ほど前、先代社長の閃きから生み出されたこれらの商品は、職人の口コミで瞬く間に広がった。しかし、知財保護をしていなかったため、競合他社が同様の製品を発売。「類似品が出回り始めた頃には手遅れだった」(吉村政城社長(53歳))。価格競争の末に市場を奪われたことで痛感したのが「知財」と「ブランド」の重要性だった。山ほどの悔しい思いを情熱に変え、自社で眠らせていた技術を大手企業の「開放特許」と結び付けるという離れ業でリベンジに向かう。

## 「社員の悲しそうな顔が忘れられない」

「母とよく話していたんです。特許を取っていれば、武蔵小杉の駅前に自社ビルが建っていたんじゃない?って」(笑)——こう振り返るのは、ベニスチロール開発当時、まだ中学生であった千恵子夫人だ。学校から帰宅後、家族総出でベニア板に発砲スチロール板を張り合わせていたという。アイデアマンの先代社長である阿部司氏は千恵子夫人にとって自慢の父親だった。

かつて、建築現場の職人たちは新聞紙等を使って養生していた。不注意により汚れや傷をつけた場合は自腹で保障する苦勞を、先代の社長は度々目にしていた。そこで、マスキングシート(養生巻物)、ベニスチロール、ガード板(養生板)といった商品を次々と開発。これらの養生資材は、古新聞よりずっと高額で過剰品とも思われたが、その利便性から「現場になくてはならないもの」と認知され始めた。ところが、潜在的なニーズを掘り起こしたこれら画期的な商品は、知財保護をしていなかったため、競合他社が次々と同様の製品を発売、類似品が出回るようになった。

「自社開発製品を売っていることに誇りがあった。類似品の出現に、社員たちの悲しそうな顔が忘れられない」(千恵子夫人)。10億あった売り上げは半分以下に落ち込み、「特許」や「商標」の重要性を嫌というほど思い知った。

## もがく

既に市場に出回っているものは特許を取れない。もう後ろを振り返っても社員の士気は上がらない。以降、阿部司氏は発明の多くの特許出願、その数は20年間で73に上った。けれども、その頃の彼は職人たちの生の声を聴く機会が少なくなり、売り上げに結び付く発明はなかった。

そうした製品の1つに「アプリテック」がある。ホタテ貝殻を高熱焼成し、粉碎後、水溶液化したものだ。東京農

工大で抗菌作用の確認を取り付けると、建物のクリーニング剤としての可能性を感じた阿部司氏は、社屋内に工場を建設、製造を開始した。ところがアプリテックは、塗布後、乾燥するとカルシウム成分が白浮きし、クリーニング剤としては致命的であることが判明。優れた抗菌力を活かして人体向けに開発するにも、薬事法や食品衛生法が大きく立ちはだかる。技術はお蔵入りとなった。

## 川崎市知的財産交流

川崎市が、大企業が保有する開放特許の知的財産を中小企業に紹介し、事業化を支援するもので、「川崎モデル」とも呼ばれている。一般的に大手企業は、数十億～数百億規模の事業でなければ事業化は難しく、多くの特許を維持費を懸けて所有している。川崎モデルでは、特許を使用する中小企業が実施料とロイヤリティーを大手企業側に払うことで、WIN-WINの関係を取っている。

## 「転んでもただじゃ起きない」

雑誌の編集者をしていた政城氏が改革に着手して以降、「Re Born」を掛け声に、眠らせている特許技術の見直しを開始した。

巷では嘔吐物からのノロウイルス感染が問題になっていた。建物用として考案された「アプリテック」だが、抗菌効果は捨てがたいものがあったため、和漢生薬研究所に話を持ち掛け、嘔吐物専用の処理キットとして日の目を見る。実際のところ「アプリテック」は先行投資が大きすぎて、引くに引けないというのが本音であった。そして2013年6月、吉村夫妻に金融機関から「川崎市知的財産交流」の声が掛かった。

## 大企業を味方に!

「パートナーを探している」という富士通のプレゼンテーションに惹かれた政城氏は、富士通研究所と東京大学が開発した光触媒「チタンアパタイト」に注目。強い吸着力で雑菌等を吸着さ

せ、紫外線により不活性化する光触媒だ。「アプリテック」と組み合わせることで、より強力な抗菌作用を持つ石鹸が生み出せるのではないかと。2013年6月、富士通とライセンス契約を締結。製品開発に向け、富士通の知財担当者、川崎市、同市産業振興財団の知財コーディネーターによる伴走が始まった。

## 休眠特許、開花

最初の問題は「チタンアパタイト」の吸着力だった。強力過ぎて、香料の匂い成分まで吸い取ってしまう。かといって、香料を加えすぎると今度は鹸化しない。製作会社の担当者とも10回以上の打ち合わせをし、納得いく泡立ちを実現するまで、配合量の試行錯誤が続



加齢臭の元となる物質を撃退!  
除菌・抗菌能力に優れた天然素材の  
高機能石鹸



いた。香料を扱う企業探しやパッケージデザイン、販売戦略など、課題の1つ1つに川崎市、同市産業振興財団の知財コーディネーターが助力した。こうして4年。昨年8月、「takara-protect soap 川崎力」は世に出た。大手技術で自社特許を開花させたとして多くのマスコミで紹介され、取引先からは「川崎力、見ましたよ」と声をかけられる商品となった。

「特許に無頓着で社員に悔しい思いをさせたが、今度は特許で少しは胸を張ってもらえるかな。」(政城氏)

40年前から変わらず、宝養生資材の社は「過去には感謝 現在には信頼 未来には希望」である。

**宝 養生資材 株式会社** TEL 044(976)0666 川崎市宮前区菅生2-19-17  
http://www.takara-youjyou.co.jp

●この記事に関するお問い合わせ  
川崎信用金庫 経営サポートセンター TEL 044(220)2456